

講義名	対2)現代ビジネス			授業形態	
担当教員	森口 文博	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

- ・インターネットの普及に伴い、企業のビジネスモデルも旧来のものから変化してきています。
- ・本講義では、現代のビジネスで主流となりつつあるビジネスモデルやそれにまつわるキーワードを中心に解説します。
- ・また、当該ビジネスモデルを活用して企業経営を行っている企業の事例をもとに、現代ビジネスの潮流を理解します。

到達目標

- ・学生は、ピクトグラムを用いてビジネスモデル（モノやカネの流れ）を説明できるようになる。
- ・学生は、ビジネスモデルキャンパスを理解し、ビジネスの構造を可視化できるようになる。
- ・学生は、現代ビジネスにおいて成功している企業が「なぜ成功したのか」、「どのようにビジネスを行っているのか」を説明できるようになる。
- ・学生は、具体的なビジネスアイデアを発送するためのツールや座席を活用できるようになる。

提出課題

- ・定期的な小テストまたは小課題に取り組みいただきます。
- ・予習・復習を行い、講義で学んだことを確実に、自分で活用できるように努めてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・小テストまたは小課題については、講義の中で回答と解説を行います。
- ・また、受講生からの質問をメールにて受け付けます。
- ・受け付けたメールについて、他の受講生にもフィードバックした方がよいと判断した場合は、次回の講義の中で紹介し、解説します。

評価の基準

- 期末試験の成績：60%
- 小テスト（または小課題）20%
- 講義への積極的な参加・貢献20%

履修にあたっての注意・助言他

- ・「経営学入門」で扱う知識や用語の理解があると学習効果が高まりますので、受講前に「経営学入門」で学んだ内容の復習を推奨します。
- ・自身が疑問に思うことは、他の受講生も疑問に思っている可能性が高いです。
- ・よって、疑問点はそのままにせず、積極的に質問・発言してください。積極的な講義中の発言・貢献を重視します。
- ・他の受講生の迷惑となる行為は退出を命じることがありますので、留意ください。

教科書

. ビジュアル ビジネスモデルがわかる。	井上達彦	日本経済新聞出版	1100	9784532119430
----------------------	------	----------	------	---------------

参考図書

. ビジネスモデル2025.	長沼博之	ソシム		9784802610148
. 世界最速ビジネスモデル 中国スタートアップ図鑑.	井上達彦/ 鄭雅方	日経BP		9784296000135

その他

- ・毎回、講師作成のレジュメをMyKA Portalにアップロードします。
- ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない現代ビジネスの潮流やビジネスモデルを紹介します。
- ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. イントロダクション（ビジネスモデルのパラダイムシフトを中心に）
2. ビジネスモデルのつくり方
3. ビジネスモデルキャンパスの描き方
4. オンラインバージョン・オープン&クローズ戦略
5. プラットフォーム型ビジネス
6. サブスクリプション方式のビジネス
7. フローミウム
8. シェアリングエコノミー
9. 新規ビジネスの発想法1（目的駆動のマーケティング思考）
10. 新規ビジネスの発想法2（手段駆動のエフェクチュエーション）
11. 新規ビジネスの発想法3（ジョブ理論・意味のイノベーション）
12. リンズスタートアップとピボット
13. ビジネスエコシステム形成
14. 破壊的イノベーション
15. ユーザーイノベーション

- ・本講義は対面にて実施を予定しています。
- ・受講生とのインタラクションを交えながら今回の講義のキーワードにまつわる話題を提供します。
- ・受講生の場合は、以下のような構成を予定しています。
- 前半：講師が今回の講義のテーマに関する説明・解説を行う。
- 後半：個人または小グループでの簡単な演習（ブラクティス）に取り組みいただき、演習結果の共有とワークの解説を行う。

- 【新型コロナウイルス蔓延に伴い、オンデマンド講義を希望する学生について】
- ・本の運営方針に基づき、オンデマンドでの受講を希望する学生には、対面クラスで収録した講義動画を後日配信します。
- ・講義の後半で行う演習（ブラクティス）は、個人ワークとして取り組んでいただきます。
- ・演習後、質問・疑問がある場合はメールまたはオンラインツールを通じて問い合わせをいただき、直接返信または次回の講義で取り上げて回答をします。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：各回の講義で取り扱うキーワードやそのキーワードにまつわるビジネスを行っている企業についてあらかじめ調べとめる。
 - ・復習：各回の講義で取り扱ったキーワード、ビジネスモデルの意味を自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。
- 講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。
- 予習・復習のバランスは各自講義に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・業務的能力を身につける講義である。
- ・各業界のビジネスの仕組みやその成功の仕組みを可視化するスキルが習得でき、当該能力を活用してその企業の特徴を把握する能力習得に貢献します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。
- ・講義の後半では、個人または小グループでの簡単な演習（ブラクティス）に取り組んでいただきますので、演習した内容を全体に共有いただき、その内容を受講生とともに考え、受講者との対話を重視しながら講義を実施します。
- ・その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用

- ・政府系金融機関での9年間の融資課外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。
- ・大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シーズがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考

- ・質問・疑問点等の問い合わせはメール（Fumihiro.Moriguchi@red.unds.ac.jp）に送付ください。
- ・また、講義中以外でも不明点や質問があれば、上記のメールアドレスにて受け付けます。